第４学年　国語科学習指導案

児　童　１組　男子２０名　女子１６名　計３６名
指導者　　佐藤　朋子

１　単元名　　材料の選び方を考えよう
教材名　　「アップとルーズで伝える」「四年三組から発信します」（光村図書４年下）

２　単元の構成

（１）　教材について

本教材は，小学校３学年及び４学年の「Ｃ読むこと」の②の内容（１）イ「目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え，文章を正しく読むこと。」「Ｂ書くこと」の②内容〈１〉ア「相手や目的に応じて，適切に書くこと。」を受け，「対比・まとめなど，段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなることを知り，読み方に生かすとともに，伝えたいことと伝える方法について興味をもつ。」「学校や地域にあるものについて知らせるために取材し，相手の目的に応じて選材して分かりやすく伝える。」を目標としている。

第１次教材の「アップとルーズで伝える」はテレビや新聞などを通して私たちに届けられる映像や写真が送り手の目的や意図によって取捨選択されたものであることを，基本的な映像の技法である「アップ」と「ルーズ」を通して考えさせる。形式段落と対応した分かりやすい写真を視覚的な資料として示し，「アップ」と「ルーズ」を対比させながら読み進めることができる。また，文章構成が，初め『「アップ」と「ルーズ」とは何か』中『「アップ」と「ルーズ」の長所と短所』終わり『「アップ」と「ルーズ」の使い分け』の３つのまとまりに分けられる。段落相互の関係を理解し，文章全体の構成をつかむ学習に適した教材である。

第２次教材の「四年三組から発信します」では，自らが情報の発信者となって，情報の収集・選択・発信を体験する。集めた情報の中から相手や目的に合うものを選ぶことに焦点を当て活動させる。

（２）　児童について

７月に行った国語の意識アンケートの結果は次の通りである。

①　国語の勉強は好きですか。(「どちらかといえば」も含む)・・・・・・・・・・・・・・・８８％
②　説明文の学習は好きですか。(「どちらかといえば」も含む)・・・・・・・・・・・・・・８８％
③　説明文の学習で，自力で課題の答えを見つけられますか。・・・・・・・・・・・・・・・６６％
(「見つけることが多い」も含む)
④　読書は好きですか。(「どちらかといえば」も含む〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・８６％
⑤　自分の考えを発表できますか。(「できるほう」も含む)・・・・・・・・・・・・・・・・６９％

アンケートの結果を見ると，説明文の学習に対して意欲的に取り組んでいる児童が多いことが分かる。

１学期の教材「かむことの力」の学習では，各段落の要点を読み取るために題に関係した語句や繰り返し使われている重要語句，指示語，接続語，文末表現などを手がかりに要点をまとめたり，段落と段落のつながりを考え，文章を大きなまとまりとしてとらえたりする学習をしてきた。

これらの学習を通して，中心となる語句や文に着目して要点を読み取ることができるようになってきた。

しかし，接続語や指示語を手がかりにして段落のつながりを考えたり，「初め・中・終わり」の役割や構成について理解したりできる児童や，自分の伝えたいことが明確になるように，段落相互の関係に注意して文章を書くことができる児童は半数程度である。

これらのことから本教材では，段落相互の関係を考えさせる手立てをとり，グループや全体の場で学び合うことを通して，段落相互の関係や文章全体の構成をつかむ力を育てていきたい。

（３）　指導にあたって

第１次教材の「つかむ段階」では，筆者は何を話題にし，そこから私たちに何を伝えたいと思っているのか考えさせていきたい。また，学習の見通しをもたせていきたい。

「ふかめる段階」では，各段落の要点を読み取らせるために，題に関係した語句や繰り返し使われている重要語句，指示語，接続語，文末表現などを手がかりに要点をまとめさせていきたい。

「まとめる段階」では，形式段落毎に小見出しをつけ，段落と段落のつながりを考えながら文章全体を分けたり，意味段落に大見出しをつけたりして文章を大きないくつかのまとまりとしてとらえて読む力をつけさていきたい。

第２次教材では「アップとルーズで伝える」で学習したことを生かして，児童自らが発信者と

なり，身近な物を題材として，相手や目的に応じて情報を取捨選択し，新聞等に書く学習を進めていきたい。

３　単元の目標

◎対比・まとめなど，段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなることを知り，読み方に生かすとともに，伝えたいことと伝える方法について興味をもつ。

◎学校や地域にあるものについて知らせるために取材し，相手と目的に応じて選材して分かりやすく伝える。

＜国語への関心・意欲・態度＞

○　伝える目的や相手に応じて，情報の材料や表現方法が異なっていることに気づき，自分が表現していくときに役立てていこうとしている。

＜読む能力＞

○　それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読む。〔イ〕

＜書く能力＞

○　自分の考えが明確になるように，簡単な組み立てを考えて書く。　〔ウ〕

＜言語について知識・理解・技能＞

○　文章全体の中で，それぞれの段落の役割を理解する。〔オ〕

４　単元の指導計画と評価規準〈全１８時間「読むこと」９時間、「書くこと」９時間〉

第１次

「アップとルーズで伝える」　　読む　７時間

段階	時	主な活動内容	評価規準＜評価方法＞		
			国語への関心・意欲・態度	読む能力 書く能力	言語について知識・理解・技能
つかむ	1	○全文を通読し，文章の内容を大きくつかむ。 ・全文を読み感想を書く。	・テレビや写真での「アップ」と「ルーズ」のはたらきに関心をもち，進んで段落のつながりを考えて読み取ろうとしている。 〈発言・態度〉	・全文を読み，初発の感想を書いている。 〈発言・ノート〉	・新出漢字や語句について正しく理解している。 〈音読・発言〉
	2	○学習計画をたて，学習の見通しをもつ。 ・学習計画をたてる。 ・簡単に文章構成をつかむ。	・初発の感想をもとに話し合い，学習のめあてをもとうとしている。 〈発言・ノート〉	・文章構成や学習課題を考え，学習の見通しをとらえている。 〈発言・ノート〉	・簡単な文章構成を理解している。 〈発言・ノート〉
ふかめる	3	○「アップ」と「ルーズ」とは何かを読み取る。 ・「アップ」と「ルーズ」の意味を読み取る。 〈段落①②〉 ・問いの文を読み取る。 〈段落③〉	・段落ごとに，重要語句や中心文を見つけ，要点をまとめようとしている。 〈発言・態度〉	・写真と対応させながら文章を読み，段落相互の関係をつかんで，「アップ」と「ルーズ」という言葉の意味を理解している。 〈発言・ノート〉	・段落の中心文や段落のつながりに気をつけて読んでいる。 〈発言・ノート〉 「どんな～なのでしょう。」 「しかし」 「でも」 「このように」 ・テレビや新聞に関係のある言葉やサッカーの様子を伝える言葉をさがす。
	4	○「アップ」と「ルーズ」の長所と短所を読み取る。 ・それぞれの長所と短所を読み取る。　〈段落④⑤〉 ・答えの文を読み取る。 〈段落⑥〉		・「アップ」と「ルーズ」のそれぞれの長所と短所が述べられていることを読み取っている。 〈発言・ノート〉	

	5	○「アップ」と「ルーズ」の使い分けを読み取る。 ・写真における使い分けを読み取る。　〈段落⑦〉 ・筆者の伝えたいことを読み取る。　〈段落⑧〉		・「アップ」と「ルーズ」の目的に応じて使い分けられていることを読み取っている。 〈発言・ノート〉	〈発言・ノート〉 「ハーフタイム」 「後半」 「スクリーン」 「ホイッスル」 「カメラ」 「紙面」 「取材」 「受け手」 「送り手」
まとめる	6	○段落の役割をとらえ，文章全体の構成をつかむ。 ・各段落に小見出しをつける。	・段落のまとまりを意識し，小見出しや大見出しをつけ，図にまとめようとしている。 〈発言・ノート〉	・段落相互の関係を理解し，文章全体の構成をつかんでいる。 〈ノート〉	
	7 本時	・段落のまとまりを考えて大見出しをつけ，文章構成を図にまとめる。			

第２次

「四年三組から発信します」　　書く９時間，読む２時間　　１１時間

段階	時	主な活動内容	評価規準＜評価方法＞		
			国語への 関心・意欲・態度	読む能力 書く能力	言語について 知識・理解・技能
つかむ	1	○「四年三組から発信します」を読み，活動の見通しをもつ。 ・教科書作例の工夫に気づく。 ・何をどのように伝えるか なイメージをもつ。	・教材文から読み取ったことをもとに，自分たちが知らせたいことをまとめる活動に意欲をもっている。 〈発言・態度〉	書く ・地域にあるものを詳しく知らせるための文章を書き，相手を決めて発信することを理解している。 〈ノート〉	・新出漢字の読みや語句の意味について理解している。 〈ノート〉
	2	○知らせたいことを決める。 ・題材について話し合い，自分たちのまとめ方のイメージをもつ。	・グループ毎の活動に積極的に加わり，何をどのように伝えるのか，自分の考えをもっている。 〈発言・態度〉	書く ・見慣れている物の中から知らせたいことと知らせる相手を決めてどんな形で発信するか考えている。　〈ノート〉	
ひろげる	3	○書こうとする題材に必要な材料を集める。	・自分たちが知らせたいことに関係のある材料をできるだけ多く集めようとしている。〈態度〉	読む ・自分達の知らせたいことに関係のある材料をできるだけ多く集めるために図書資料を読んでいる。 〈図書資料〉	・表現したり理解したりするために必要な文字や語句について辞書を利用して調べている。〈ノート〉
	4	○集めた材料を選材する。	・「選んで伝える」を参考にして材料を整理しようとしている。　〈態度〉	読む ・目的や相手に合わせて知らせることができるように，「選んで伝える」を参考にして材料を整理している。 〈ノート〉	

ひろげる	5	○目的や相手に合わせて知らせたいことを選び，文章にまとめる。 ・アップとルーズを意識して構成を考える。	・目的や相手に合わせて知らせるためにアップとルーズを意識して構成を考えようとしている。 〈態度・話し合い〉	書く ・目的や相手に合わせて知らせるためにアップとルーズを意識して構成を考えている。 〈ノート〉	
	6 7	○目的や相手に合わせて知らせたいことを選び，文章にまとめる。 ・構成をもとに下書きを書く。	・アップとルーズを意識した構成をもとにして下書きしようとしている。 〈原稿〉	書く ・アップとルーズを意識した構成をもとにして下書きをしている。 〈原稿〉	
	8	○推敲する。 ・見出しや割り付けを工夫して，相手に応じて言葉や表現，内容を考えて推敲する。	・下書きをもとにして，見出しや割り付けを工夫し，相手に応じて言葉や表現，内容を考えて推敲しようとしている。 〈態度〉	書く ・下書きをもとにして，見出しや割り付けを工夫し，相手に応じて言葉や表現，内容を考えて推敲している。 〈原稿〉	・誤字や脱字がないかを確かめている。　〈原稿〉
	9	○清書する。	・文章を読み合うことで，相手に応じた言葉や表現，内容になっているか考えようとしている。 〈態度・話し合い〉	書く ・文章を読み合うことで，相手に応じた言葉や表現，内容になっているか考えている。 〈原稿〉	
まとめる	10 11	○交流会をする。 ・自分が書いたものの発信をする。 ・発信されたものを見ての感想を書き，良さの交流をする。 ・自分達の活動をふり返る。	・分かりやすい文章にまとまっているかどうかを考え，感想をもとうとしている。 〈挙手・発言〉	書く ・分かりやすい文章にまとまっているかどうかを考え，感想を感想カードに書いている。 〈感想カード〉 ・自分達の活動をふり返って，ふり返りカードに記入している。 〈ふり返りカード〉	・表現したり，理解したりするために必要な語句を増やしている。 〈感想カード〉

5　本時の指導

（1）　目標

３つの大きなまとまり相互の関係や文章全体における役割をとらえ，大見出しをつけることができる。

（2）　指導にあたって

仮説１〈板書構成の工夫〉に関わって

３つのまとまりの見出しをつけるために，前時までにまとめた各段落の要点，３つのまとまりの働きが書いてある表を掲示し，活用する。また，前時まで学習してきた意味段落毎の文章の構成図を黒板に掲示し，文章全体の構成がつかめるようにする。ワークシートは掲示した表と同じものを使う。

仮説２〈学び合い〉に関わって

「学び合い」ではグループや全体で，重要語句を出し合うことや，見出しを付けた根拠を発表すること，友だちとの共通点・相違点を出すことを通して，どの見出しがふさわしいかを確かめる場とする。

仮説３〈一人一人の評価の積み重ね〉に関わって

根拠をもって見出しをつけることができたか。学び合いによる気づきがあったかなど，文章による自己評価をする。

（３）　展開

段階	学習内容と学習活動〈○発問・児童の反応〉	一人	複数	全体	・留意点　評価　〈評価方法〉
つかむ２分	１　前時までの学習を想起する。 ２　本時の学習課題を確認する。 ３つのまとまりに大見出しをつけよう。				・要点が書いてある表と児童が用いるワークシートを使って本時の学習課題を把握する。
ふかめる	３．課題解決の見通しをもつ。 ４．表に書いた各段落の要点を音読する。 ５．課題解決をする。 ○「初め」「中」「終わり」はどんな役割をしているでしょう。 ・初め　①②③　問いかけ ・中　④⑤⑥　問いかけに対する説明 ・終わり　⑦⑧　まとめ ○１つ目のまとまりの中で重要語句は何ですか。その言葉を使って大見出しをつけてみましょう。 ・アップとルーズ ・アップとルーズとは何か				・学習の見通しをもつことができるように，要点が書いてある表を活用し，学習の流れを確認する。 ・３つのまとまりのつながりを考えながら，形式段落の要点を読むように指示する。 ・３つのまとまりの見出しをどのようにつけていけばよいかを考えさせるために，それぞれのまとまりの役割を確かめる。 ・各段落の小見出しや要点の中の重要語句を使って大見出しをつけることを確認する。
	◎２つ目のまとまりの小見出しや要点から大見出しをつけましょう。	一人学び			・一人学びの仕方の確認をする。 ①要点や小見出しの重要語句にサイドラインを引く。 ②サイドラインを引いた重要語句を使って、大きなまとまりの内容が分かるようにできるだけ短くまとめる。
	◎一人学びでつけた大見出しをグループで出し合いましょう。 ・アップとルーズの伝えられること，伝えられないこと ・アップとルーズの長所と短所		学び合い		・どうしてそのように大見出しをつけたのか理由を言いながら発表するように指示する。 ・友だちの考えを聞いたら，自分の考えとの共通点・相違点について発表するように指示する。
	◎グループで出された大見出しを理由を言いながら発表しましょう。 ・二つ目のまとまりは，「アップとルーズでは，どんなちがいがあるのでしょう。」という問いかけに対する説明なので，『アッ			学び合い	・グループでまとめた考えを書いた物を黒板に掲示し，お互いの考えを交流する。また、グループで一つにまとめられないときには、その理由についても説明するように指示す

35分	プとルーズの伝えられること伝えられないこと』という大見出しをつけた。 ・伝えられることは長所，伝えられないことは短所なので,『アップとルーズの長所と短所』という大見出しをつけた。 ○３つ目のまとまりの大見出しをつけましょう。 ・アップとルーズの使い分け ・アップとルーズをどう使い分けるか ５　課題についてまとめる。 ○自分達がつけた大見出しが「初め」「中」「終わり」のまとまりの役割が分かるものになっていますか。文章構成図でも確かめてみましょう。 一　アップとルーズとは何か 二　アップとルーズの伝えられること、伝えられないこと 三　アップとルーズの使い分け			学び合い	る。 ・『問いかけに対する説明』の「大見出し」として分かりやすいもの、重要語句が含まれているという観点でふさわしいものを導き出していく。 A評価 ・段落の小見出しや要点の重要語句を使って，大見出しをつけることができた。 ・根拠や理由をつけて発表することができた。 Cへの支援 ・ヒントカードを提示し，大事な言葉が，大見出しの中に入るように支援する。 ・説明文の多くは，「初め」「中」「終わり」の３つのまとまりで書かれていることを文書構成図を使って確かめる。
まとめる 8分	６　学習の振り返りをする。 ・まとめと感想を発表する。 ７　次時の学習を確認する。 ・自分達が伝えたいことについて発信する活動に入ることを確認する。				・　学習を振り返って感想をふり返りカードに書くことを指示する。 ・　意欲等を配慮し，意図的に指名する。 ・　今まで学んだ文章構成を生かして，文章を書いていくことを伝える。

《自己評価の観点》

○　学習の進め方が分かったか。
○　課題の答えを書くことができたか。
○　自分の考えを持ち，話し合いのときに発表できたか。
○　学び合いのときに友達の発表を聞いて気づいたことがあったか。

（４）　主な発問と板書計画

４年　「アップとルーズで伝えよう」〈　７／１８時間目〉　　指導者　佐藤　朋子

本時の指導

〈１〉目標

３つの大きなまとまりの相互の関係や文章全体における役割をとらえ，大見出しをつけることができる。

〈２〉指導にあたって

仮説１　〈板書構成の工夫〉に関わって

３つのまとまりの見出しをつけるために，前時までにまとめた各段落の要点，３つのまとまりの働きが書いてある表を掲示し，活用する。また，前時まで学習してきた意味段落毎の文章の構成図を黒板に掲示し，文章全体の構成がつかめるようにする。ワークシートは掲示した表と同じものを使う。

仮説２　〈学び合い〉に関わって

「学び合い」ではグループや全体で重要語句を出し合うことや，見出しを付けた根拠を発表すること，友だちとの共通点・相違点を出すことを通して，どの見出しがふさわしいかを確かめる場とする。

仮説３　〈一人一人の評価の積み重ね〉に関わって

根拠をもって大見出しをつけることができたか。学び合いによる気づきがあったかなど，文章による自己評価をする。

主発問等

〈つかむ〉

○「アップとルーズ」の文章の三つのまとまりのつながりや役割が分かるようにそれぞれのまとまりに見出しをつけていきましょう。

〈ふかめる〉

○「初め」「中」「終わり」はどんな役割をしているでしょう。

○一つ目のまとまりの重要語句は何ですか。その言葉を使って見出しをつけてみましょう。

◎二つ目のまとまりの小見出しや要点から大見出しを考えましょう。

◎一人学びで考えた大見出しをグループで出し合いましょう。

◎グループで出された大見出しを理由を言いながら発表しましょう。

○３つ目のまとまりの大見出しをつけましょう。

〈まとめる〉

○自分達がつけた見出しが「初め」「中」「終わり」の役割が分かるものになっていますか。文章構成図で確かめましょう。

アップとルーズで伝える　　中谷　日出

学習課題　三つのまとまりに大見出しをつけよう。

まとまりと役割	一　初め　問いかけ			二　中　説明			三　終わり　まとめ	
大見出し	「アップ」「ルーズ」とは何か。			アップとルーズの伝えられること、伝えられないこと			アップとルーズの使い分け	
小見出し	①サッカー会場全体の様子	②コートの中央に立つ選手の様子	③アップとルーズではどんなちがいがあるか。	④アップで伝えられること、伝えられないこと	⑤ルーズで伝えられること、伝えられないこと	⑥目的におうじたアップとルーズの切りかえ	⑦写真におけるアップとルーズの目的に合った使い分け	⑧受け手が知りたいこと、送り手が伝えたいことによっての使い分け
要点	テレビのサッカーの試合放送のハーフタイムの画面には、会場全体の様子がうつし出されている。	後半開始の画面には、コートの中央に立つ選手が大きくうつし出されている。	広いはんいをうつすとり方を「ルーズ」といい、ある部分を大きくうつすとり方を「アップ」という。どんなちがいがあるのだろうか。	アップでは、細かい部分の様子を伝えられるが、うつされていない多くの部分は伝えられない。	ルーズでは、広いはんいの様子を伝えられるが、選手の顔つきや視線、気持ちなどは伝えることができない。	アップとルーズでは伝えられることと伝えられないことがあるので、目的に応じて、切りかえている。	アップやルーズでとった多くの写真の中から目的にいちばん合うものを選んで使っている。	受け手が知りたいこと、送り手が伝えたいことにおうじて、アップでとるかルーズでとるかを決めたり、選んだりしている。

文章構成図

初め　①　③

中　④　⑥

終わり　⑦　⑧